

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1473300190	事業の開始年月日	平成12年3月18日
		指定年月日	平成16年4月1日
法人名	社会福祉法人ふじ寿か会		
事業所名	高齢者グループホームあすの里		
所在地	(〒226-0014) 神奈川県横浜市緑区台村町401-2		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	9名
		ユニット数	1ユニット
自己評価作成日	平成21年11月6日	評価結果 市町村受理日	平成22年3月5日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>・地域の中で「生活」しつづけるということを大事にしている。</p>

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2丁目10番地 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成21年11月25日	評価機関 評価決定日	22年1月26日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>このホームは、J Rおよび横浜市営地下鉄の中山駅から徒歩約8分の住宅街の中にある。ホーム周囲には畑が多く残り、便利で静かな環境である。</p> <p>建物は緩やかな斜面を利用して建てられ、しゃれたデザインで、鉄筋コンクリート造りの平屋である。法人で最初のグループホームを立ち上げる際に、2人の職員が全国の様々なグループホームを視察した経験を活かし、良いところを取り入れて設計された。「人は周囲に70%以上木があると落ち着く」という説を参考にして、床、腰板、天井にふんだんに木を用いているほか、状態の異なる利用者を想定して、3つあるトイレの便座の高さをすべて変えるなど、ホーム内には様々な配慮が見られる。</p> <p>「一人ひとりの生活づくり」を事業所の理念とし、利用者が生活の主体者となれるよう出来ることはなるべくしてもらい、職員は側面的な援助者に徹している。</p> <p>ホームが利用者の「家」である以上、看取りをするのも自然なことであるとの考えから、看取りの希望があり、痛みや苦しみのない状況であれば受け入れる方針で、これまでに2件の経験がある。看取り介護加算、医療連携体制加算等の指定を受けている。</p> <p>自治会の「クリーン活動」などには出来る限り参加しているほか、ホームや利用者のことを、理解してもらうため、隣接のマンションに行事のチラシを配って、親子で遊びに来てもらったり、地域の方に防災訓練に参加してもらうなど、地域との交流も積極的に行われている。</p> <p>運営推進会議は2ヶ月に1回行われている。同じ日に開催する家族会には毎回ほぼ全家族が出席して意見交換等がなされており、積極的に運営にかかわっている。</p> <p>訪問時には、利用者同士や職員との楽しげな会話が途切れることなく聞こえ、安心して穏やかに、思い思いに過ごしている利用者の様子を見ることができた。</p>

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	高齢者グループホームあすの里
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念は、開所時から変わっていない。理念は玄関に掲示している。また、実習生のオリエンテーションでは最初に理念の説明をしているので、職員全員に徐々に浸透していると思う。	「一人ひとりの生活づくり」を理念としている。職員には契約時などに理念のペーパーを渡し、具体例を挙げて説明している。利用者が生活の主体者となれるよう、利用者が出来ることには職員が手を出さず見守るなど、側面的な援助者としての姿勢を徹底している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買い物や、散歩時などは挨拶をお互いにしあい、地域の行事に参加させてもらい、ホームの行事には地域の方に参加してもらっている。	自治会に加入し、地域のお祭りや「クリーン活動」、防災訓練などに行ける限り参加している。月に1度、おやつ作りのボランティアが来訪したり、ホームのハロウィンの行事に隣のマンションの親子が遊びに来たりしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員は意識的に地域の人に向けて活かしているわけではないが、日常の様子を見てもらうことで、認知症やホームに対する理解は進んでいると思う。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の人との交流は、会議を行っていく中で、どんどん盛んになってきている。アルコール消費について多角的に考えることができた。	会議は2ヶ月に1回、奇数月の第4土曜日に開催している。自治会長や地域包括支援センター職員のほか、認知症に詳しい大学助教授（看護師）も参加しており、参加者からアドバイスや意見を取り入れている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	区の担当者とは、運営推進会議の報告書を届けるときには、時間をとってもらい、意見交換をしている。	運営推進会議の実施報告書を届ける際には必ずアポイントを取って、話をしている。空き部屋についての照会やグループホームの様子について問われることも多い。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「具体的な行為を正しく理解」まではできていないこともあるが、身体拘束はしないという認識は職員に共通してあると思う。玄関は日中は施錠していない。	日中、玄関の施錠はしていない。玄関扉の正面がカウンター式の受付になっており、見守りが徹底できる。管理者は、「ちょっと待っていて」などの言葉かけも「『心』体拘束」に当たるとの認識を持ち言い換えを心がけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内で勉強会を開いたり、地域のモデル事業所の研修に参加したり、意識を高めるようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	この1年間では学ぶ機会は作っていないが、制度については管理者が把握し、必要な利用者には情報提供している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約は管理者が行っている。十分な説明を心がけているが、今年度の加算の説明には苦労した。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱は設置しているが、利用はない。家族会にオブザーバーを同席する機会を設け、家族が意見を言いやすい雰囲気を作るようにしている。	玄関に掲示している職員の顔写真に「私に相談して下さい」等と付記して、担当者を明示している。家族会を運営推進会議の前に開催し、心配事や意見を聞いている。家族同士での意見交換もある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行うカンファレンスでは、運営に関して、意見を出してもらったりしている。ゴミ捨ての時間、係を変更した。	管理者は毎月のカンファレンスのテーマを個々の職員から挙げてもらうことで意見が言いやすくなるよう配慮している。室内の装飾、掃除の仕方、ゴミ捨て係、食事のメニュー等について職員の意見を取り入れた事例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤続年数により、時給をアップしている。労働条件については、全職員の希望を聞いているわけではない。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会は多く与えてもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	県や市のグループホーム連絡会に加入している。連絡会の研修やブロック会に参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接では本人の声にも十分聞き取り、それを職員に伝えている。職員も日々関わる中で、知り得た事を記録に残し、皆で同じ対応をできるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にも、家族に電話連絡などしている。入居日や次の日、1週間後など、ご本人の様子をこまめに伝えるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話を聞いた上で、必要であれば関係機関に連絡したり、他のサービスの情報提供をしたりしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	料理の作り方を教えてもらう、お花の生け方を教えてもらうなど、ご本人の得意なことを発揮してもらっている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にも、ホームでの様子を伝えることを心がけている。共に支える関係作りは、ご家族によっては、少しできてきたところと思う。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの食事処に行ったり、姉のお墓参りに行ったり、ご本人が望む外出の支援はしている。	「辛いカレーが食べたい」等、利用者の希望に沿って、しばしば近隣の行きつけの店に行っている。友人や馴染みの店の人が訪ねてくれることもある。電話や手紙は取り次ぎ、電話をかけたい人は職員が支援してかけている。家族が入院した際に職員が付き添いお見舞いに行ったこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ただ席に着くだけでなく、先に座っている人の名前を伝えたり、お互いに話が弾むように、会話の最初の入り口を職員が伝えたりしている。朝、くしを渡すと、他の方の髪をとかしてくださる方がいる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	管理者が、本人の様子を見に行ったり、移られた先の職員に話を聞いたりしている。必要と思われるご家族には、管理者から連絡をとったりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	センター方式を使い、ご本人の思いを探ろうと心がけているが、これが本当にご本人の望んでいることなのか悩むこともある。	表情やしぐさを観察したり、入居者同士の会話をさりげなく聞いて、本人の気持ちを読み取るように心掛けている。利用者の言葉が本心なのか、よく検討するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を使い、生活歴や暮らし方の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝の申し送りは出勤職員全員で行い、昼食後ミニミーティングを行うなど、職員間で意識の統一を図れるようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者だけではなく、全職員がアイデアや情報を出せるよう、担当職員を決めている。月に一度のカンファレンスでは気になることを話せるようにして、それらは介護計画に反映するようにしている。	入居者の担当職員を決め、継続的にきめ細かく状況を把握し、担当職員がアセスメントから計画原案の作成まですることが多い。カンファレンス時には、全職員で気になることを出し合って検討し計画作成担当者がまとめている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間で情報の共有が図りやすいように、個別記録の欄は少ないが、別紙に記録を残せるようになっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況に合わせた受診支援や、外出支援をおこなっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の人との交流を大事にしている。野菜の収穫に呼んでもらえたり、外出時手を貸してもらえたりしている。今後アコーディオンとハーモニカのボランティアさんが来てくださる予定。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	他の医療機関に家族と受診されている方もいるが、かかりつけ医はホームに往診してくださっている先生に全員お願いしている。先生は、希望があれば今の状況を家族に説明してくれている。	2週間に1度ホームを往診する、認知症に詳しい内科の医師が、現在全員のかかりつけ医となっている。家族が診療所を訪ねたり、往診時に来訪して相談することも多い。年に1回MRI検査を実施している。眼科、整形外科には家族の付き添いで通院している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が週に1回訪問してくれている。訪問看護師は往診医の診療所からの派遣の為、医師との情報共有もできている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者が、速やかな情報提供を心がけている。入院した際は、週に何回かは面会に行き、本人の状態把握、病院職員との関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人にはセンター方式を用いて、終末期の希望を聞いている。家族には、管理者が起こりうる情報提供を行い、どのような支援がご本人にとって良いのか、機会あるごとに話し合っている。	入居時に「入居者が重度化した場合の対応についての指針」を提示し同意書をもらっている。痛みや苦しみがでない状況であれば、看取りを受け入れる方針である。早い段階から、起こりうる状況や特養への入所等、他の選択肢も示しながら話し合い、家族と職員は方針を共有している。在宅医療や看取りに積極的な医師の協力を得られる体制がある。看取りは2件の経験がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員とまでは行かないが、訓練を行ったり、研修に参加したりしている。先日は、消防署、地域の方とともに訓練を行い、今後は定期的に訓練をしていきたいという意見が職員から出ている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	全ての職員とまでは行かないが、訓練を行ったり、研修に参加したりしている。地域の訓練に参加するなどし、地域の人にホームの実情を見てもらおう機会を作っている。	ホームの防災訓練には自治会長ほか十数名の地域の人参加がある。災害時に米を炊く袋の使い方について教えてもらったこともある。区内の同法人のグループホームに3日分の非常食の備蓄があるほか、ホームにも若干の食料や防災頭巾等の備品の準備がある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員一人ひとり、それぞれ注意を払っているが、他の職員の声かけについて、どうかな、と思っている職員もいる。ホームとして勉強会を開いていきたい。	利用者の人格の尊重やプライバシーには留意しているが、馴染みの関係ができてくると、排泄誘導の際に「トイレ」の声が大きくなったり、言葉遣いが馴れ馴れしくなってしまうこともある。	利用者への声かけの仕方や、言葉遣いについて、いま一度振り返り、プライバシーの確保や言葉による身体拘束をテーマとした勉強会開催を実現することが期待される。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声かけは「○○してみよう」ではなく「○○してみる？」や「○○はどう？」と言うように気をつけている。ゼリーの味を選んでもらうなど、そういう小さな事から実践している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間帯によっては、職員の都合で動いてしまう事もあり、反省する事もある。基本として入居者さんのペースを尊重したいと思い、日々実践し、もっとできることはなかったか、考えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を買いに行くときは、本人と一緒にいる。自分用の化粧水やシャンプーを持っている人もいる。起床時にはクシを洗面台に用意している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	台所に入って食事作りを手伝う人、フロアで盛り付けを手伝う人、お茶の入り具合を観察する人、それぞれに役割を持ってもらおうと、声かけしている。	利用者は調理、配膳、洗い物など、できることを手伝っている。隣の人に箸を渡すなど小さなことでも、皆が何か役割を持ち、利用者同士の良い関係が作れるように配慮している。職員も一緒に食事をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの適量を把握し、通常より少ない、多い、などは申し送っている。栄養バランスについては1ヶ月に1回程度、栄養士献立表のチェックをしてもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯ブラシだけではなく、口腔洗浄剤でのうがいや、仕上げのブラッシングなど、それぞれに合わせた支援をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を活用し、パターンをつかむようにしている。職員間で排泄表を見れば、次の誘導の時間などがわかるようにしている。	1時間ごとに「排泄簿」を付けている。全職員の目に触れる台所の壁に掲示して、次の誘導時間などの情報を共有している。排泄のリズムを把握し、夜のみリハビリパンツを使用するなど一人ひとりに応じた対応をして、自立に向けて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	でるでる茶や、プルーン、散歩などで便秘予防している。下剤の使用は1人のみ。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴の時間は大体決まってしまう（15時～17時）が、職員の状況や、入居者さんの状況により、決まった時間以外でも入れることもある。入浴剤を使用したりして、入浴を楽しんでもらっている。	1日に3～5人、2、3日に1回は入浴するようにしている。寝る前の入浴を希望する場合は、正職員が夜勤となる際には対応している。入浴したくない人には、相性の良い職員が対応するなどしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠状況や、前日の活動状況によって、適時休める時間を作っている。ベッドで横になるだけでなく、ひなたぼっこなど、本人の好む場所での休息を心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の用紙は日誌に挟んであり、すぐ見られる。服薬に変更がある場合は、その他にも記載し、職員全員が注意を払えるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	センター方式を用いて、把握に努めている。生活援助計画に反映できるようにしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望に沿っては、出かけられる範囲が決まってしまうが、計画をご本人と立てて、希望する外出をしている。	買い物には毎日行き、散歩を天気の良い日にしている。花の好きな方がデパートの生花展を見に行ったり、欲しい服を求めて数件の洋品店を巡ったりしている。バスで浅草に行楽に出かけたこともある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	数千円程度はもっている方もいるが、なくなった、盗られた、という思いをしないよう、事務所で預かっている人がほとんど。外出時にはおこづかいを持ってもらっている。毎日の買い物のお金の計算をみるのが好きな方がいるので、その人の前でお金を数えたりする事もある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はかかってくれば本人に取り次いでいる。かけたいときは電話を渡し、かけてもらっている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	目に見える汚れはその都度拭くようにしたりしているが、臭いは時々気になる事がある。	ホーム内は木の部分が多く、温かい雰囲気である。リビングには温湿度計、加湿器を備え、温湿度、照明の明るさ、外光の眩しさ等に留意している。清掃が行き届き、清潔である。トイレには十分なスペースがあり、絵や花が飾られている。訪問時、軒には手作りの干し柿が吊るされていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関先にベンチを置いたりしている。もう少し独りになれる場所を作りたいと思っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が使用していたものを基本的には持ち込んでもらっているが、家族と話し、自分の物があることで「なんで」と怒りそうな人に対しては、新しいものをそろえてもらったりした。	居室は全室が畳である。畳の縁が段差に見えてしまう人の部屋では敷物で縁を隠している。広い収納スペースが2か所ある。使い慣れた桐ダンス、ベッド、ぬいぐるみ、ラジカセなどが持ち込まれ、作品や写真、賞状などが思い思いに飾られていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの電気がわからない方がいたので、その方が使うトイレの電気に大きく「電気」というシールを貼ったら、自分でつけられるようになった。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 高齢者グループホームあすの里

作成日 平成22年3月3日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	36	「職員と利用者として楽しげに会話をしている」と評価していただいたが、楽しげになることで、尊厳を守る事がおろそかになってしまっていると考えている。	楽しい雰囲気を保ちつつ、利用者さんの尊厳について考えられる職員になる。	1、職員と入居者さんの会話や、入居者さん同士の会話から「今月のほっと心が温まるフレーズベスト3」を決め、職員が会話について関心を持てるようになる。 2、身体拘束や尊厳についての研修会に参加する。	1、4月から毎月 2、1年間
2					
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。